

憲照先生の手本ア・ラ・カルト(16)
(à la carte)

締切り 四月二十二日(必着)

昭和58年5月

年	多	寛
を	く	え
取	の	ら
る	こ	れ
ほ	と	る
ど	が	

つけペン・墨汁使用

〔解説〕

年^{長く}を^と取^る

ほ^多の^のが^が

寛^えら^られ^れ

◎本会は、今年で創立六十七周年を迎えます。

まだまだ世の中には、新型コロナ禍の影響で、世界中が不安の中にいます。

しかしながら諸先生、会員の皆様の「書」への意欲は消えることなく、時間と共に基本的活動は戻りつつあります。

◎今年の短期特別課題は、昨年に引き続き『原点回帰』をテーマとして、本会の創設者奥村

憲照先生の手本を改めて学び直すことにいたします。お手本は、硬筆、毛筆、一般部、教育部なども合わせれば相当数あります。一類を四ヵ月交替で掲載していく予定です。

◎多くの方がかつて憧れた憲照先生の書と向き合うことで、書への情熱を今一度燃え上がらせていただければと思います。

◎創立七〇周年に向けて、力強く歩んで行きましょう。

★年を…(書体Ⅱ楷書)

アイスキュロス

(前五三―前四五六・ギリシャ、作家)

なぜ、短命よりも長命の方が望ましいか。それは長く生きれば生きるほど、色々なことが覚えられ、賢い人となることができるからである。せっかく人の世に生まれ出た以上、できるだけ多くのことを知っておきたいものだ。彼は七十年の生涯に九十編もの悲劇を書いたが、なおも長生きして、もっと物知りになりたいと願ったのであった。

〔作品の出し方〕

▼今回も硬筆部だけに限ります。全員本会級位

用紙に書いて下さい。硬筆を習っていない方も、出品は可能です。ご自由にどうぞ。

▼用具は自由ですが、線美を追求のためには、つけペン・墨汁をお薦めします。

▼出品制限の対象とはなりません。

▼事務処理上、支部略称・氏名・会員番号・硬筆規定の成績を、作品余白にお書き下さい。

※不明な点は無記入でも結構です。

▼優秀作品は、写真版として成績表の後ろに掲載しますが、成績表での順位発表はしません。

▼月例作品と同封する場合は、必ず別のビニール袋に分け、表に「月例」「短期特別」と明記して混同しない様をお願いします。

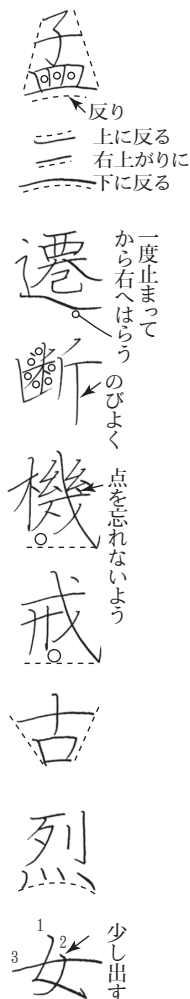
一般部規定課題

締切り 4月22日(必着)

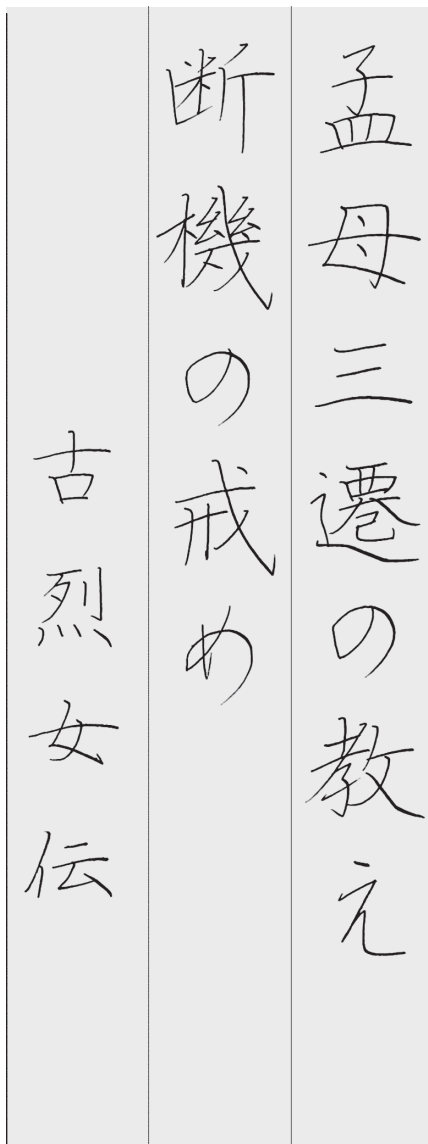
準初段から六段まで

新入から1級まで

〔解説〕



▶教範・書範は右課題を「行草または草書」で、師範は「行書」で出書して下さい。

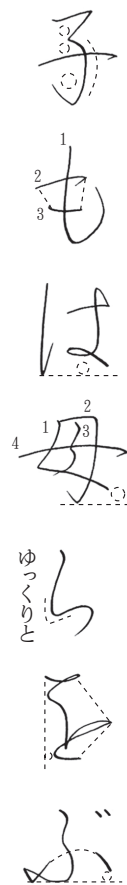


新井龍峰書

▷用具＝自由（黒色に限る）

▷用紙＝本会段位用紙

〔解説〕



古田瑞苑書

▷用具＝自由（黒色に限る）

▷用紙＝本会級位用紙

▼教範・書範＝行書
▼師範＝楷書

◆5月課題予告（行草または草書）
時が
困難な物事を
解決してくれる

★孟母：（書体＝楷書）
劉向（前六六～前六）の著と言わ
れる『古烈女伝』より
中国の偉大なる儒学者『孟子』を育
てた母の賢母ぶりを示す有名なエピ
ソード。子どもの教育のためには環境
が大切であると、三度家を移したのが
「三遷の教え」。
学校を早退した孟子の前で、自分が
織りかけていた機をたち切り、途中で
学問をやめるのは、織物を途中で切っ
てしまうのと同じで、何の役にも立た
なくなると戒めたのが「断機の戒め」
である。

◆5月課題予告（楷書）
今日出来ることは
明日に延ばすな
フランクリン

★子どもは：（書体＝行書）
アンドレ・モロア（一八八五～一九六七）
フランスの小説家
社会は、基本的には愛によって成り
立っているのであり、平和に社会生活
を営んでいけるのは、お互いに愛す
ることを知っているからである。そ
の「愛すること」を、子どもの頃から
周囲の人々に愛されることによって学
ぶのであり、特に大部分は母親の母性
愛によって学ぶのである。

準初段から六段まで

新入から1級まで

乗鞍農閑奈多のかなた春星可利那かぎりなし

乗鞍乃可多のかなた支奈志春星かぎりなし

■両課題とも、文字の変換・配字は自由です。

た なか き こう
田 中 貴 光 書

▷用具=自由（黒色に限る）

▷用紙＝本会段位用紙

た なか き こう
田 中 貴 光 書

▷用具=自由（黒色に限る）

▷用紙＝本会級位用紙

のりくら
乗鞍のかなた春星かぎりなし

（前田普羅）
まえだふら

〔句解〕夜空をふり仰ぐと、黒々とそびえ立つ乗鞍岳のはるか遠くに、みずみずしい春の星が数限りもなく輝いている。

〔鑑賞〕収録の句集名『飛驒紬』ひだつむぎから推察して、飛驒ひだたかやま高山のあたりから望んだ乗鞍岳であろう。〈春星〉という語のふつくと弾力のある音感が、今生まれたばかりのような春の星のみずみずしさにふさわしい。それを〈かぎりなし〉と一氣にいい切り、思いを遠い夜空にはせるように表している。

〔古筆参考〕

那 な	支 し	多 た	閑 か	農 の
那	支	多	閑	農
那	支	多	閑	農
那	支	多	閑	農
那	支	多	閑	農

【解説】漢字の横線は右上がりに書いて大きく柔らかく見せ、その字の最後の画で上手くバランスを取ります。

◆5月課題予告

日と海の懷ふとしろに入り雁かり帰る

(阿部みどり女)じょ

締切り 4月22日(必着)

春のまばゆい光の中で、目に映る
ものすべてが明るく生きいきして
いる様に感じられますが、その後
お変わりありませんか。我が家では
玄関先の空きスペースに熱帯魚を
入れるべく水槽を設置しました。

作品の出し方

- 新入から師範まで、どなたでも出書できます。成績は評価により毎月変わります。
- 用紙Ⅱはがき課題ははがき用紙、横書き課題は一般部段位用紙を横に使用。
- 用具Ⅱはがき、横書き課題ともに自由。
(黒色に限る)
- 両課題とも、書体変換は自由です。

※手本は水性ボールペン使用

春のまばゆい光の中で、目に映る
ものすべてが明るく生きいきして
いる様に感じられますが、その後
お変わりありませんか。我が家では
玄関先の空きスペースに熱帯魚を
入れるべく水槽を設置しました。

横 書 き 課 題

お 郷 すい こう
尾 郷 翠 光 書

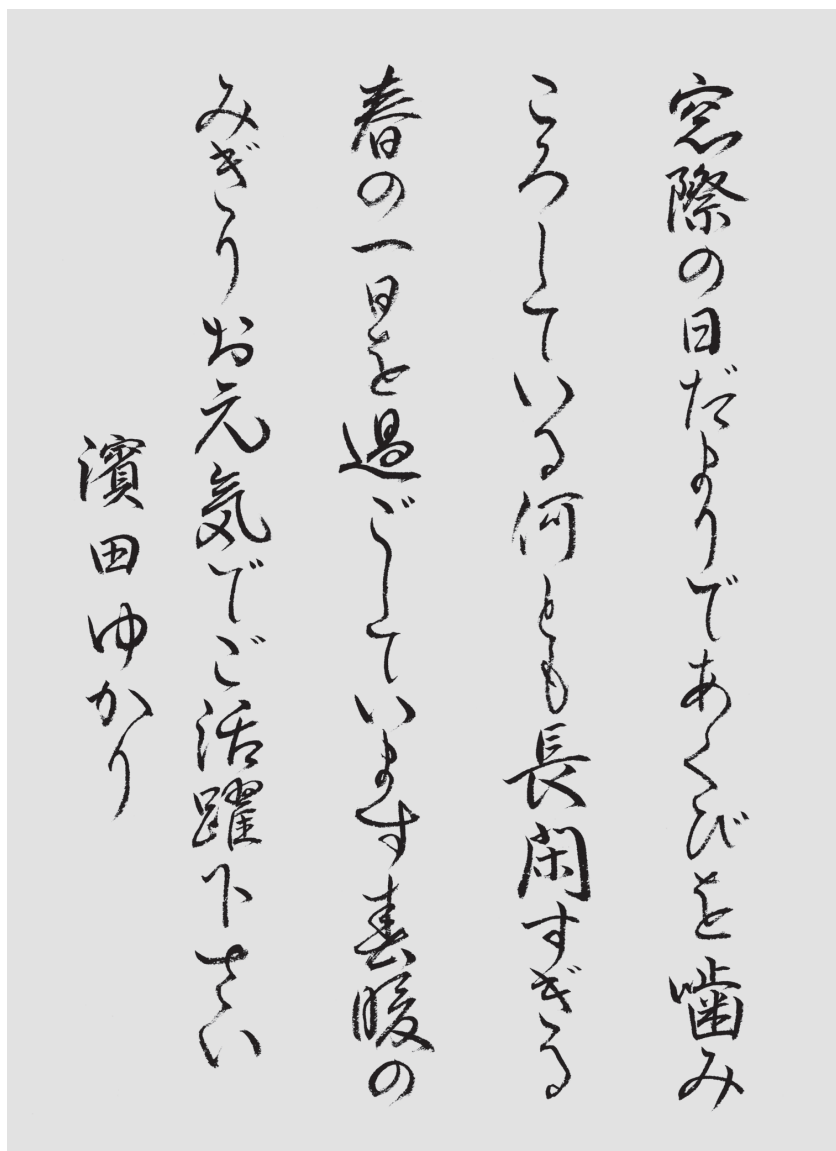
日本の伝書鳩は、明治年間に陸軍
が欧州より輸入したのが始まり。

愛知県蒲郡市 氏 名

※手本はつけペン使用。 ★三行目は、指定の地名と氏名を書いて下さい。

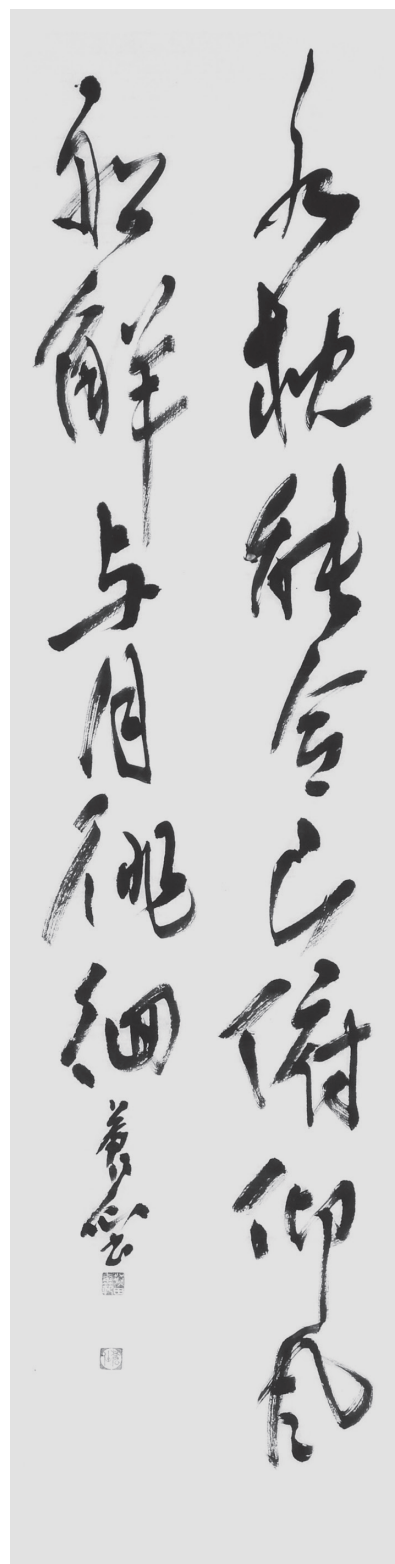
一般部毛筆細字課題

一般部毛筆条幅課題



半紙 (334 mm × 240 mm)

書 香 梅 藤 伊



締切り 四月二十二日 (必着) 半切 (一三六 cm × 三五 cm)

荻 田 蒼 仙 書

みずにくらせばよくやまをしてふきようせしめ
水枕能令山俯仰

かぜにふねをとまあすからせばつきはいかいす
風船解與月徘徊

そとうば
蘇東坡

〔条幅解説〕

肉太(画)、細い線どちらも重さを感じるのとは不可。筆圧をかければ強さが出るのではなく、これは速度抑揚を加えて工夫。筆圧は軽くスカッと強い線をめざす。ここに枚数をこなす所以があります。師の運筆を見て会得するのが一番(劉蒼居先生の語)私も努力中。

窓際の日だまりであくびを噛み
ころしている何とも長閑すぎる
春の一日を過ごしています 春暖の
みぎりお元気で活躍下さい
(ご自分の氏名)
・印で墨つきしました。

〔条幅・細字作品の出し方〕

- 新入から師範まで、どなたでも出書できます。
- 成績(天位〜5等)は、評価により毎月かわります。
- 書体変換、変体仮名の交換は自由です。

〔大意〕水面に枕して
山を見ると山が俯仰
するかのようで、又風
に船のともづなをほど
くと船上で見る月影が
一か所をゆきつもどり
つしているようだ。

初出品の方へ

支部名・会員番号・
姓名・毛筆漢字成績
を、作品左下に必ず
お書き下さい。

新入から1級まで(行書)

澤

幸
寿
書

樂天心
不憂

樂天心不憂
てんをたのしみてこころうれえず

〔大意〕天命を楽しみ、心は何も心配しない。

〔解説〕

樂 天 心 不 憂

◆5月課題予告(楷書)

結果自然成
結果自

準初段から師範まで

須田一葉 臨

道 括
以 羽
為 成

道
以
為
括
羽
成

道
以
為
括
羽
成

〔解説〕

〔出典〕孔子廟堂碑（六二六～六三三）
〔筆者〕虞世南（五五八～六三八）
〔読み〕（大）道に（凝心すれば）、以
為うに、括羽成（器は）

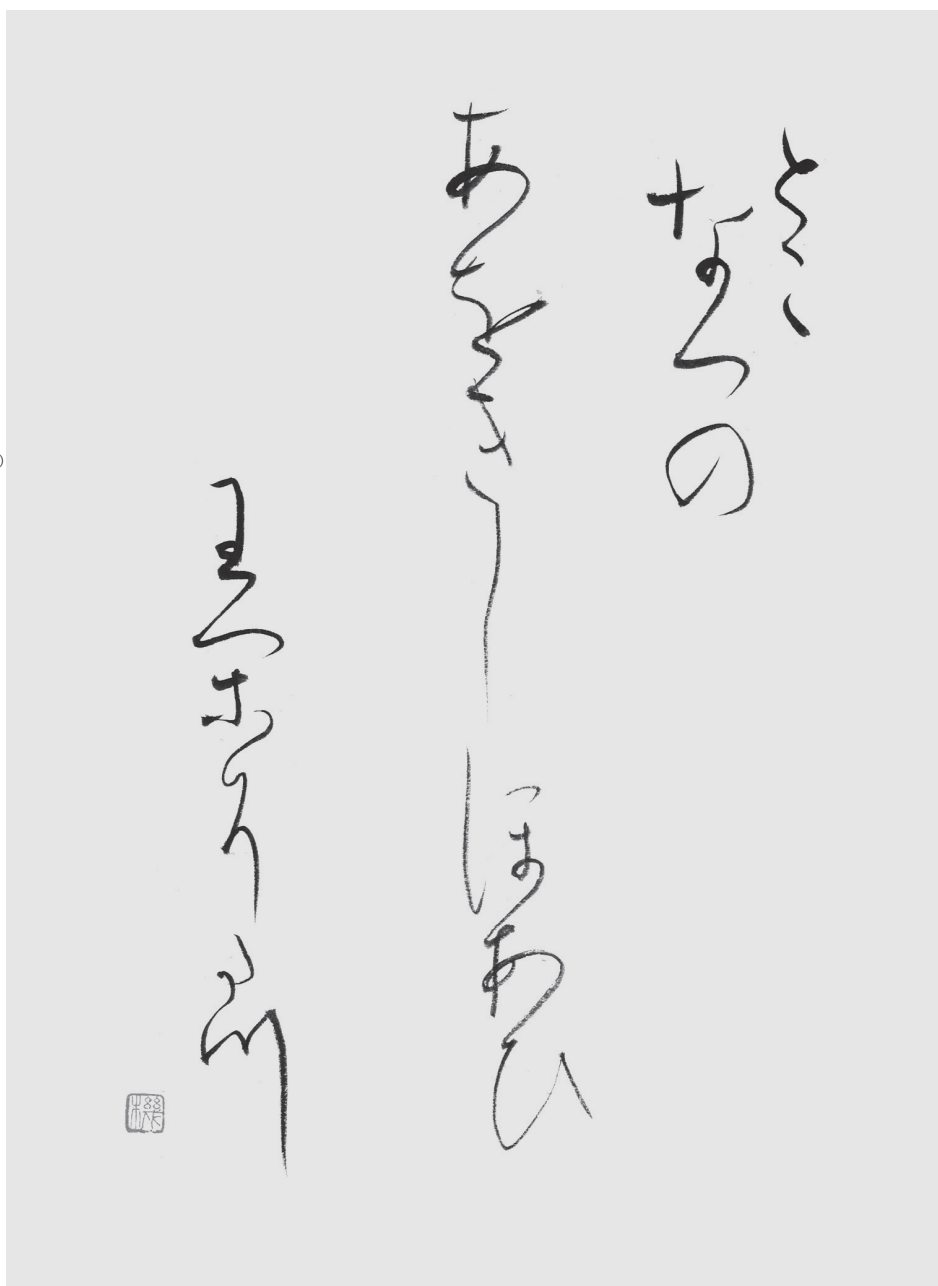
道 以
為 括
羽 成

◆5月課題予告
※文献によって字体が異なる場合があります。

循躬省
慮弥益

新入から1級まで

浅井機山先生書



とこなつ
あを
しほ
王閑曾多
川(州)
杉田久女

〔句意〕常夏の地、沖縄で幼児期を過ごした思い出が詠まれた句。数十年前の記憶がいきいきと蘇り、いまさらながらその地に在るごとく南国の香りに満ちている。

◆5月課題予告

夏の蝶こぼるゝ如く風の中

〔解説〕

上5を2字と3字で1カタマリにして宙に浮いた感じにし、中7は、ほぼ中央に長い柱にし、下5は、変体仮名で半分よりやや上から書いて、右行の裾とほぼ揃えています。

さて、1行ずつ見ていきましょう。

「と」

「と」や「こ」は、本来小さい字です。小さく書き出し、

「なつの」

大きな「な」、「の」も結構大きな字で、「とこ」と一体にする感じです。

「あをきしほあひ」

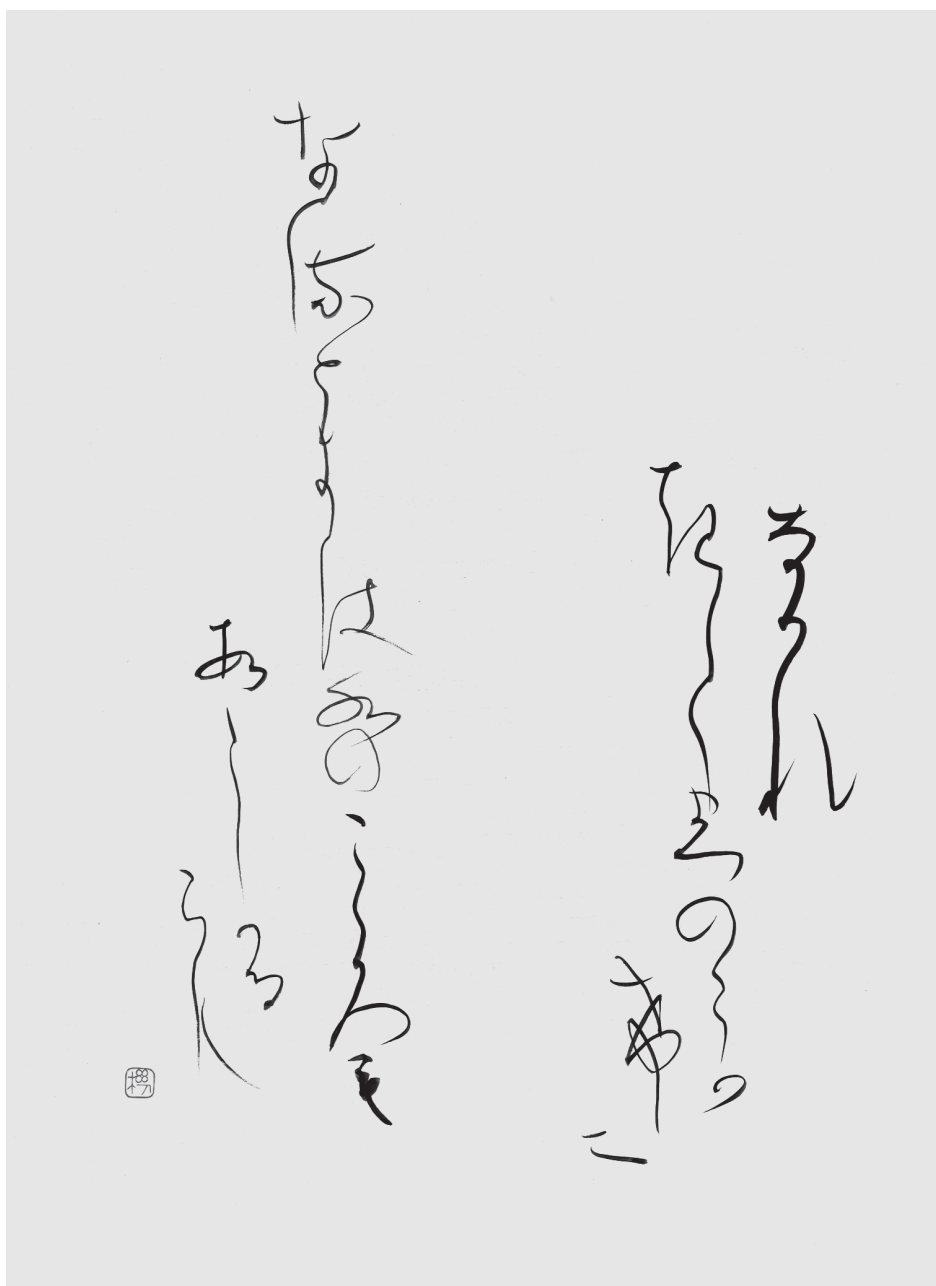
行間をとって、長い行は、中心にあって、存在感を高めなければなりません。上から下まで垂直に一直線でないことを、まず確認しましょう。下の方「あひ」が、右に移行しているのが分かります。垂直に立つより、〈行の揺らぎ〉のある方が安定しやすいし、右左の余白を上手く捉えることが出来ます。「あを」で、右左右左に揺れる曲線があり、それを「し」のタテ線で流れをしっかりと捉えています。字間をつめた「ほあひ」は大きい字ですが、右へ移行することとで右の大きな余白を捉えています。

「王閑曾多川」

墨継ぎして小さい「王」を書き、大きい「閑」、小さい「曾多」、大きい「川」と続けて書き終えます。

準初段から師範まで

浅井機山先生書



奈可
起
来
て
松
の
木
陰
に
な
る
と
き
は

水
の
心
も
涼
し
か
る
ら
む

きのしたたかふみ
木下幸文

〔歌意〕

はるばると流れてきて、松が木陰を作っているところへ出た時は、流れる水も心に、さぞかし涼しいと思うことだろう。

◆5月課題予告

ほととぎす嵯峨へは一里京へ

三里水の清滝夜の明けやすき

〔解説〕

料紙は、鳥の子のうすい鼠色の具引き紙で、さざ波模様が版木で水色に刷られている淡いものです。

散らし書きは、右の1群と左の1群の二手に分かれ、右は背が低いが力強く、左は背が高くしなやかで、互いに違うものが対峙しているという感じですね。

さて、1行ずつ見ていきましょう。

〔奈可れ〕

墨をたっぷり含ませて、力強く書き出して一呼吸します。

〔起弓末つの二可〕

〔起弓〕は、右行に接近させて大きくゆったり書き出します。

〔末つ〕は、字間をつめ、「の二可」は、ゆったりして右の余白を受け入れます。

〔希二〕

〔希〕は、縦長の字形に大きく書いて第1行の「奈可れ」を受け、「二」も、「希」だけでまだ足りないのを助けて、「希二」で一体としています。

〔な流と支は水の〕

墨がかすれてきてゆったり書き、

〔ころ毛〕

墨継ぎして第1行よりは細めに。

〔毛〕で太線にして第1行の太さを受け、右の「二」へ働きかけます。

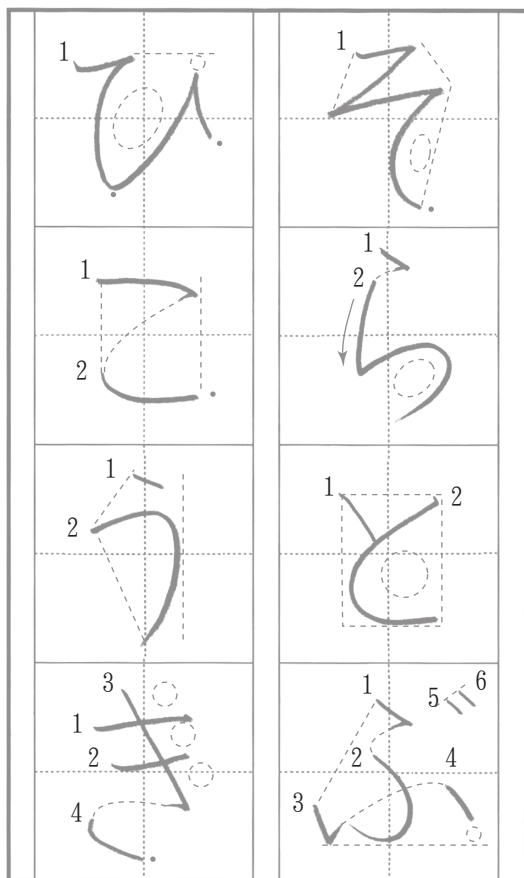
〔数、し可る〕

高さに気をつけて、しなやかに書き、

〔らん〕

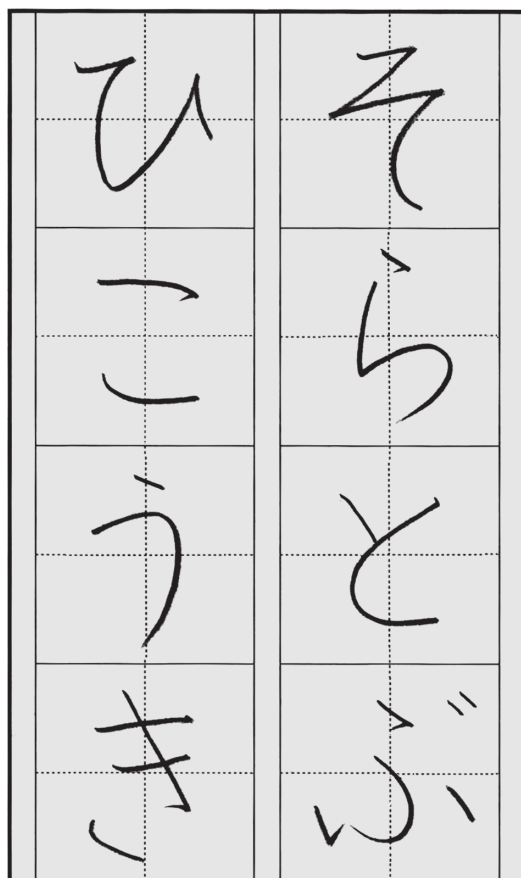
全体を見ながら、慎重に書き終えます。

〈ようぐ〉自由(黒色にかぎる)



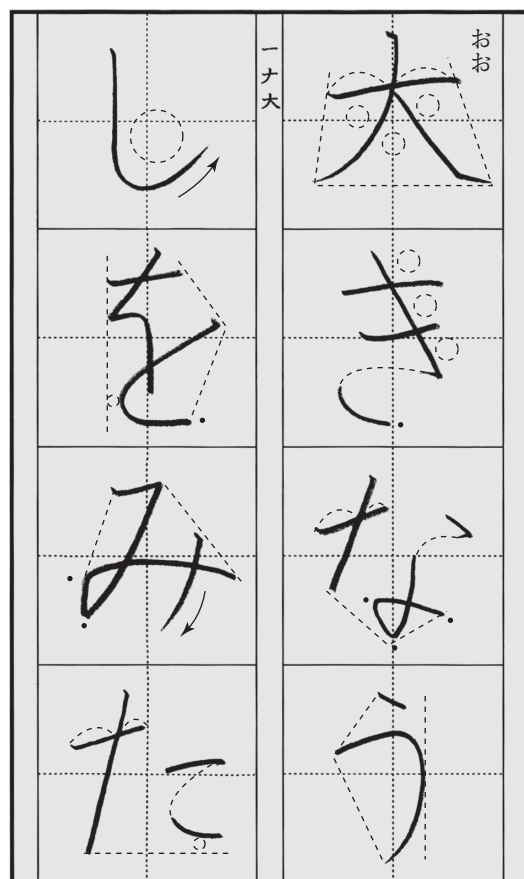
◆ひらがなトレーニング(なぞってかいてみよう)

★新入は、年少・年中・年長の別を記入して下さい。
★幼年は、全員8マス用紙で出書して下さい。



よ
う
年

幼年〜小三年まで
三宅容玉書



新入〜1級

(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。



新
小
一
年

準
初
段
以
上

〈ようぐ〉自由(黒色にかぎる)

で	近 ちか
ハ	く
ト	の
が	寺 てら

新入1級

が	で	近
鳴	ハ	く
い	ト	の
て	た	お
る	ち	寺

新小二年
準初段以上

文 ブン	明 あす
を	日 あす
出 だ	感 カン
す	想 ソウ

新入1級

想	日	本
文	ま	を
を	で	読
出	に	み
す	感	明

新小三年
準初段以上

※明日(あす)単語としてこのように読みます。
(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。

新四年生は、左記により、全員この手本どおり8マス用紙で出書してください。

記

*用具は自由ですがデスクペン、つけペンで書く人は、硬^{かた}くならず、のびやかに書く習慣をつけることが第一目的です。

*六月締切り分までは、この方法が続けます。

*ペン書きの人は早く慣れるよう、たくさん練習しましょう。

*七月締切り分からは、準初段以上は従来どおり15マス用紙を使用してください。

〈用具〉自由(黒色に限る)

の	冷 ^{レイ}	新小四年 (全員)
温 ^{オン}	ぞ	
度 ^ド	う	
計 ^{ケイ}	庫 ^コ	

慣 ^ナ	長 ^{ナガ}	新小五年 (全員)
文 ^{ブン}	愛 ^{アイ}	
具 ^グ	用 ^{ヨウ}	
	使 ^{ツカ}	

解説(よく見て習いましょう)

た	て	長	新小五年 (全員)
文	使	く	
ぼ	い	愛	
う	慣	用	
具	れ	し	

小五以上は、全員15マス用紙で出書して下さい。

小四年以上 岡嶋桂川書

新小六年

を	窓	快
な	か	速
が	ら	列
め	景	車
る	色	の

(全員)

※景色(けしき)＝単語としてこのように読みます。

解説(よく見て習いましょう)

窓	快
景	速
色	列
	車

〈用具〉自由(黒色に限る)

新中一年

ホ	植	規
ブ	樹	則
ラ	々	正
並	れ	し
木	た	く

(行書)

新中二・三年

(行書)

体	緒	朝
操	に	祖
を	ラ	父
す	ジ	と
る	オ	一

▼小三年以下の課題 や 矢 川 智 水 書

書	黒	大	ク	先
いた	板	き	ラ	生
た	に	な	ス	は
よ		字	目	
		で	ひ	
			よ	
			う	
			を	



◎お手本はえんぴつ使用

- ◇作品の出し方
- 一、選定用紙（五行・四行）に書いて下さい。
 - 一、作品には、支部名（校名）学年、氏名を書き入れて下さい。
 - 一、筆記用具は自由です。（黒色に限る）
 - 一、四行用紙を使用してもよろしい。その場合は、文章を適当に短くして下さい。
 - 一、成績は評価により毎月変わります。
 - 一、支部会員は、出品ラベルを必ず貼って下さい。貼っていない方は新入とみなします。

◎お手本はつけペン使用



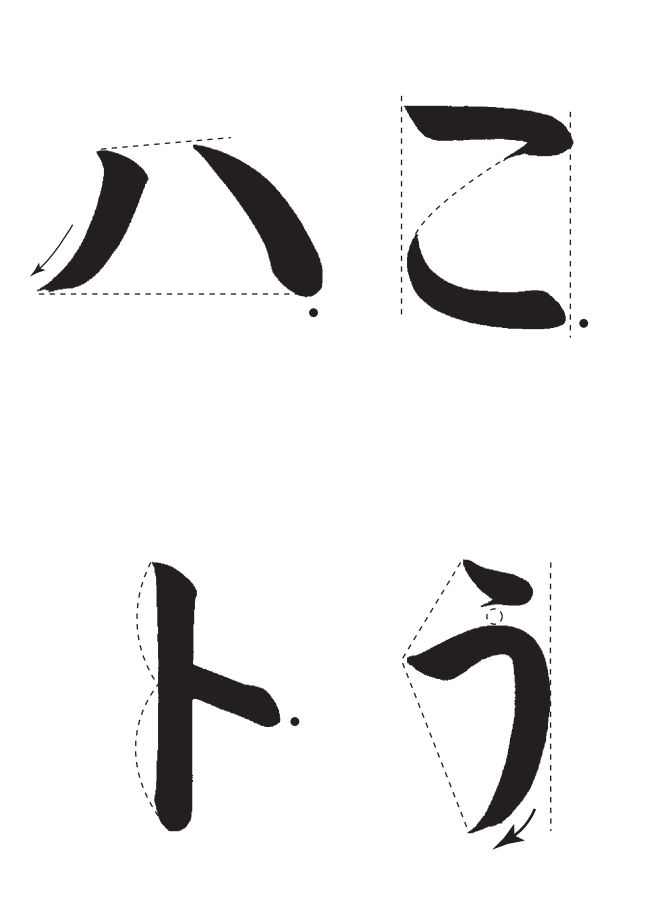
しめきり 4月22日（必着）

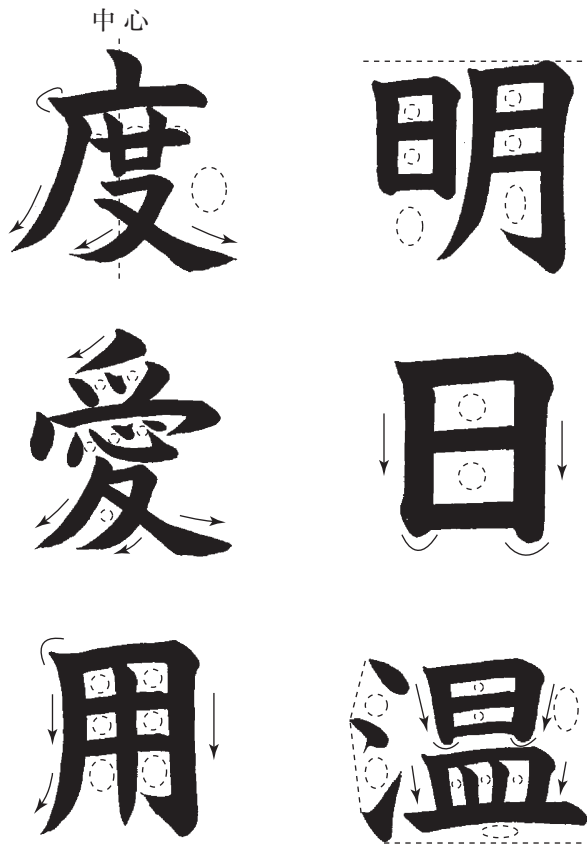
習っていない漢字は
ひらがなで書いてもよろしい。

▼小四年以上の課題 なか むら すい えん 書

ペ	教	真	始	新
ー	科	新	ま	学
ジ	書	し	り	期
を	の	い		が
開				
く				





新小三・新小五年
水野碧友書

中
二
三

体操

小
六

快速

木 快
体 速
操 植

中
一

植木